

# 道博協ニュース

## 第38号

平成4年3月31日  
北海道博物館協会  
発行所 札幌市厚別区厚別町小野幌  
事務局 北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

### 北海道青少年科学館職員研修会について

平成三年九月二十一日（九月二十二日）北網圏北見文化センターに於て、北海道青少年科学館職員研修会を開催しました。

この日程は、北見における91ソーラーフェスティバルの開催日にあわせてのもので、この期間中には、ミニソーラーカーやソーラーパネルを使用した創作模型を全道から募集したソーラークリエイティブ、北見市が、ソーラー技術の展示公開を目的としたソーラー活用展等が開催されている時で、この研修会もほくさん開発事業部の中村英巳氏の講演を「ソーラーカーの開発と現状」と題して行っていたいただきました。

講演内容は、太陽電池の作成に至るまでと、アモルフェス系、化合物反動体、シリコン系（単結晶と多結晶）等メーカ毎に異なる素材を使用していること。また、ソーラーパネル三十六枚で12Vとまだ性能が低いこと。

アメリカ、オーストラリアでは、ソーラーカーであることとを証明することにより、ナンバープレートがもらえ、公道を走れることや、スイスやアメリカ等ではソーラーカーレースが毎年開催されている。

来年には、ハンガリー、ニューヨーク、日本では金沢でも開催予定である事などの情報もいただきました。

各館の情報交換では、室蘭から展示物更新のこと。苫小牧市はプラネタリウムの更新、千歳市からは、プラネタリウムの番組を、音も映像も市民参加で作成、これも組織化したい。千歳の歴史を写真紹介する番組作りにも取り組みたい。

札幌市は開館十周年の記念の年でジャンプやボブスレーをシュミレーション体験できるもの、リアモーターカーのコーナー、トリック撮影等展示品の更新やロボット探検館の特別展開催。釧路市では幼児向けのプラネタリウム番組作りを保母さんと一緒に作

る計画や、平成十二年度までの長期計画に科学館建て替えが採用された。帯広市では、館内の改修と特別展「おもちゃランド」が盛会だったので、今年1回の特別展を続けること。小樽市はプラネタリウムの座



エクスポラトリウム展を実施した疲れが残っているが、遠心力実験装置と知能ロボットの導入と、五月五日こどもの日に、シャボン玉の部屋を作り好評だったこと。また長期計画の中に「青少年宇宙科学館」の名称で調査費がついたこと等が話された。

北見からは、開基九十五年市制施行五十周年の記念年にあたり美術展に力を入れていくこと、N.T.Tの展示コーナーが更新された事を伝えた。

第二日目は、研修の目玉で「ソーラーチャレンジ・イン・北海道」の名称で国内初の公道でのソーラーカーレースの見学日だったが、雨天でレースが順延になってしまった。残念ではあったが、開催地としてわずかに慰められるのは、前日のソーラークリエイティブやソーラー活用展視察のときレースにチャレンジするソーラーカーのタイムトライアルの状況を、科学館職員に見ていただけたことです。

向としたこと。「ワクワクセンサー探検館」が大ヒットした。厚岸町は、無料から有料に変えたこと。プラネ番組を委託製作していたが、予算の関係で自作にしたこと。稚内市は展示品の増加をする準備を進めていること。プラネ担当者が異動になり苦慮している。旭川市は開基百年事業で

北網圏北見文化センター

管理課長 細野義昭

## 平成三年度日本動物園水族館協会 北海道ブロック秋季飼育技術者研究会報告

当初予定は、室蘭が春季当番館でしたが、種々の事情により開催できなくなり、サンピア水族館と協議の上、秋季開催となりました。サンピア水族館の岡田学芸員に誌上を以てお礼申し上げます。

担当者は全く研究会に出席したくない主査二名。どうしようか……。と不安いっぱい思案中であったが、八月下旬にやっと腰を上げ、開催日を十月中旬頃と定め、会場探しをはじめた。希望日は、スポーツ大会で近くのホテルは予約でいっぱいであったが、隣のホテルは空室があり、何とか予約できました。商談に何度も足を運び、ようやく開催日を決定しました。

一、開催日 十月八・九日  
二、会場 エスカル室蘭  
九月二日付にて案内文書を十一園館長宛に発送。締切日は九月十七日。締切日を過ぎても申込のない館が二館。ようやく集計したのが二十日。

ホテルに宿泊者等を報告。

今回はどうしたことか、例年になく出席者、研究発表者がたいへん多く、十二園館二十六名、十四研究発表、関係



者も非常に喜んだ次第です。

研究内容は次のとおりです。  
(1) エゾヒグマの交尾行動の観察(クマ牧場 坂元)  
(2) トドの出産と飼育経過について(室蘭 相内)  
(3) ラッコの死亡について

(広尾 本田)

(4) ミリアキヤットの飼育について(円山 吉川)

(5) 水槽内におけるクサウオ科(コンニャクウオ属?)の稚魚の飼育

(網走 鈴木)

(6) エゾシカの血液検査結果について(釧路 田中)

(10) 毎年新生仔が斃死する

個体(トナカイ)の自然分娩と人工受胎について

(円山 本間)

(11) フタコブラクダの人工哺育について(釧路 高橋)

(12) シベリアアヘラジカの哺育経過について(帯広 清野)

(13) エゾバフンウニの増殖事業について(小樽 籠島)

(14) 室蘭沖のシロイルカについて(登別 土屋)

座長に旭川・小林、小樽・籠島、登別・土屋、円山・古川の四名。座長の進行が素晴らしい活発な質疑応答がなされ、一日目を終了した。



(7) タンチョウの飼育について(旭川 小林)

(8) エゾヒグマの雌雄分離飼育下での採食量の変化

について(クマ牧場 今井)

(9) ラッコ幼獣の飼育状況について(小樽 渡部)

◎協会三十年事業に寄附◎

知床国立公園をフィールドに、ユニークな活動を続けている斜里町知床博物館には、博物館協力が設置されている館活動を力強くささげています。



このほど、知床博物館協力は、北海道博物館協会三十年記念事業のために事務局あて多額な御寄附を寄せられました。とり急ぎ当協会では、所用で斜里町を訪れた矢野理事が、三月三日、会長代理として知床博物館協力量会長小泉昇氏に感謝状をさしあげました。皆様の御好意に対し厚く御礼申し上げます。

くお礼申し上げます。  
市立室蘭水族館  
施設主査 大柴物寿

北海道博物館略史 (7)

(2) 函館博物館の函館商業学校移管

開拓使と札幌県が設置した函館の二つの博物館は、明治十九年一月の函館県の廃止と北海道庁の設置にともない、北海道庁に移管され、道庁は同年三月、その管理を函館区役所へ委任した。

六〇点である。現在の市立函館博物館と比較してみると、資料点数は現在では二〇〇倍以上に増加しているものの、利用者は当時の方が二倍以上も多く、この博物館の果たしていた役割が大きかったことを示している。

なお、当時、陳列・収蔵資料は、歴史(土器・石器・アイヌの民具など)、植物(乾

況は、開場日数二二二日、縦覧者三九、八一五人で、陳列品は二、七七八種、約三、五

美術品、雛形、農具)、動物(貝類、魚類、漁具、鳥類、製革類、哺乳動物)の五部に分類されていた。

水産陳列場



一方、明治二十年、庁立函館商業学校が設立されると、函館博物館を同校の商品陳列場に転用することが検討され、

明治二十四年六月、まず第一博物館が、ついで二十五年三月には第二博物館も同校の商品陳列場となった。

明治二十五年の概況は、陳

列品が二五種・四、六七五点、開場日数二九〇日、縦覧者二六、九八四人であった。

その後、明治二十八年三月、函館商業学校が廃止となり、四月に函館中学校が開設され、同校に商業専修科が置かれると、校舎と共に陳列場も同校に引き継がれることになった。こうして、北海道の開拓使以来の古い博物館は、総て学校附属の博物館になったのである。

(3) 物産陳列場(産業博物館)の開設

物産陳列場(産業博物館)の開設

明治十九年に設置された北海道庁は、勸業政策の一環として物産陳列場を開設したが、その最初の施設が、明治二十四年七月、函館に開場した水産陳列場である。

この陳列場の設立に力を注いだのは、札幌農学校第一期生で、明治十九年から二十年にかけて米国に出張し、漁業の調査にあたり、二十三年七月、道庁水産課長となった伊藤一隆である。

伊藤一隆は明治二十二年に、函館公園内の博物館近くに完成した工費、一七四九円余。母屋が間口一五間、奥行六間の木造平屋建、寄棟桷葺で、これに玄関が付き、総建坪九五坪である。従来の第一、第二博物館と比較すると著しく大きな建物で、正面の標札には「水産陳列場」と「MUSEUM OF FISHERIES」が併記されていた。

二十三年には陳列品の購入・採集に努めた結果、水産動物二八四種、水産採捕具四九五種、水産製品三七八種、同蕃殖用資料二種、同図画二七種、合計一、一八六種が集まり、これを五部、三七類、一二〇種に分類して陳列した。明治二十四年六月、「水産陳列場規則」を定め、七月に開場したが、その管理は函館区役所に委任した。

この陳列場の設置目的は、「国ノ内外ヲ問ハス水産事業ノ参考トナルヘキモノヲ広ク蒐集出陳シテ治ク公衆ノ縦覧ニ供シ水産業ノ進歩ヲ図ル」ことにあり、月曜日閉場、縦覧券料は明治二十五年五月から一枚五厘を徴収した。同年は五月十四日開場、開場日数一九九日、縦覧者一三、九五〇人であった。

水産陳列場の列品は、明治二十六年四月現在二、七五四個で、北水協会の出品が一、二七六と最も多く、従来の博物館からの引継資料、有志者の寄贈資料、新たに製作した標本類などであった。

この庁立の水産陳列場は、明治二十八年三月廃止となり、四月からは函館区立の水産陳列場となった。この年の六月には、既に、記したとおり商品陳列場も函館区に払い下げられ、区では、それを水産陳列場に統合した。こうして、この陳列場は、旧函館仮博物館の第一館、旧函館県博物館の第二館、旧庁立水産陳列場の第三館で構成されるに至ったが、明治三十四年四月に第三館が廃止された。

(北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関 秀志)

# 学芸員研修会 in 美幌

十月二十四・二十五日の両日、美幌町で本年度の学芸員研修会が開催されました。秋の館行事で忙しい時節にもかかわらず、全道各地から64名もの参加があり、近年にない盛会な研修会となりました。

この研修会はこれまでは道央圏で開催してまいりましたので、参加者が減少するのではないかと心配しておりました。これは全くの杞憂にすぎず、当初の予定人員をオーバーすることになり、急遽会場を美幌グランドホテルに変更しなればなりません。参加したある人は「昔前の博物館大会のようだ」と感慨深げにつぶやいておられました。

研修会はずまず釧路市立博物館の澤館長の基調講演で始まりまし。澤館長は石川啄木のごとく、青春の夢と希望に胸を膨らませて、さいはての釧路の駅に降り立ち、その足で博物館の門を叩かれました。博物館で学芸員を募集してい

るという噂を聞いて東京からやってきたのでした。そのような話は全くなく、館長の特別な計らいで博物館の居候をさせていただくことになりました。家庭教師のアルバイトをしながら、無給で博物館の仕事を手伝う日々が続きましたが、やがて東釧路貝塚の発掘調査を契機に念願かない博物館の学芸員になられました。

午後からは、道東部の博物館の中でも、特色ある活動を展開しておられる博物館の実践例を報告していただきました。

ムなどが紹介されました。ひがし大雪博物館の川辺百樹学芸員からは調査研究活動の重要性が博物館活動の根幹をなしており、関連科学との積極的な連携により、幅広い活動を展開している実践例が報告されました。また、根室市教育委員会の近藤憲久学芸員からは学校教育の地域学習教材に取り組んでいる活動が紹介され、知床自然センターの中川元学芸員からは日常の研究活動が博物館事業のベイスになって活動している実態が報告されました。



に、「春採湖」、「釧路川」、「釧路湿原」、「道東部海岸線」などの総合調査を実施されましたが、これらの成果が釧路湿原の国立公園化への大きな運動として発展したのでした。今日における釧路市立博物館の充実した施設と体制は、澤館長をはじめスタッフの地道

な活動の積み重ねによって得られたものであることを改めて痛感いたしました。

美幌博物館の小林敬学芸員より、美幌博物館の建設に至る経緯とその後の活動の報告があり、農水省補助事業としての博物館建設の問題や地域教材を積極的に活用した「カシキづくり」、「うどんづくり」など独自の学習プログラ

## 館園紹介

金田心象書道美術館(心象館)

金田心象書道美術館は、平成二年五月二十日に開館しました。

この美術館は、幌延町出身の書家、故金田心象さん(平成二年二月十六日逝去)の日本書道界における偉大な書業を讃え、書を鑑賞し、北海道の気候風土にふさわしい書道のことをねらいとして、国ふるさと創生事業の一環として、一億円の交付金を活用して建設しました。

金田心象さんは、明治四十一年に幌延町で出生(戸籍上)、昭和三年札幌師範学校本科を卒業して書の道を志し、鈴木翠軒(文化功労者・日本芸術会員)に師事。昭和十八年から昭和四十二年まで文部省に勤務。国定教科書を揮毫。昭和四十年、日展で文部大臣賞。昭和四十六年、日本芸術院賞を受賞しております。

(富良野市郷土館 係長 杉浦重信)

この書道美術館は、金田心象さんの意向により「心象館」

と愛称しております。

心象館は、鉄骨造一部二階建て延面積四四八平方メートル。一階には、展示室とホールがあり、展示室は主に大型の作品を、ホールには喫茶コーナーを設け、インスタントコーヒーですが、自由に飲めるようになっております。

二階は、書齋の再現と小型の作品や愛用品等を展示し、



VTRコーナーを設けて、金田心象さんを紹介しています。心象館は、金田心象さんから寄贈を受けた、大・小作品一、二〇〇点をはじめ、硯・墨・筆・陶器類等の愛蔵品約五〇〇点を収蔵していますが、

展示はそのごく一部で、年一回(五月の連休明け)の展示替えを行い順次公開していくことにしております。

北海道では、美術館の一部に書作品を展示しているところはありますが、書道関係のみ、しかも一個人の作品・愛蔵品等を収蔵した美術館は心象館だけという珍しい美術館です。

開館以来、道内をはじめ全国各地から訪れておりますが、絵画等の芸術作品を展示している美術館と異なり、やはり珍しい美術館ということで来館する方も多いようです。

町では、将来、第二、第三の金田心象が生まれ育ってくださることを願って、平成三年十月に、留萌館内小・中学生を対象に「第二回心象書道展」を開催しました。今年も、留萌管内に、上川・宗谷管内の本町と隣接する二町を加えて「第二回心象書道展」を開催することにしており、将来、出来得れば、全道的規模に発展させたいと考えています。この外、町の青年有志によ

り、実行委員会を組織して、心象館展示室の空間を活用して、「書がある 音がある 心の象(かたち)になる」の

タイトルを掲げて、ミニコンサート「心象館音楽の夕べ」を開催しております。昨年は、クリスマス・コンサートとして実施、好評であった。今年度は、札幌団員の弦楽四重奏を計画しております。



これらの事業を通して、少しでも「書」の関心が高まり、心象館が親しみのある書の城に築きあげたいと思います。

#### (金田心象)

書道美術館(心象館)案内

#### ★所在地

天塩郡幌延町字幌延一〇二

#### ★開館時間

九時～十七時

#### ★休館日

月曜日・国民の祝日(五月三日～五日は臨時開館)

#### ★入館料

小・中・高生

一〇五円(八十四円)

一般 二一〇円(二六八円)

( ) 内は二十人以上の

団体料金

#### ★交通

JR幌延駅より徒歩五分

#### ★問い合わせ先

金田心象書道美術館

(電話)〇一六三三一

五二七二〇

又は幌延町教育委員会

社会教育課

(電話)〇一六三三一

五一三三二

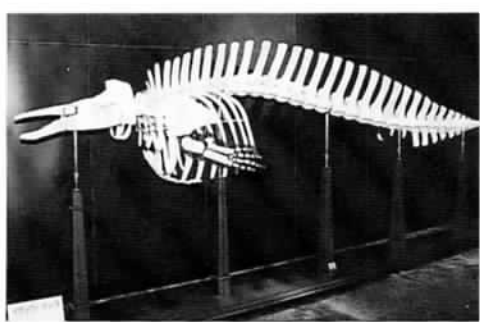
#### (心象館)

館長 福田國男

#### ○道内初のイチョウハ

クジラ骨格標本の展示

平成二年三月、室蘭市内のイタンキ浜に打ち寄せられ、一時はごみ最終処理場に埋設されるところ、イルカ、クジラオウチングなどのクジラ人気を背景に市民や関係機関



の努力により骨格標本化が決定した。平成三年八月までの一年五ヶ月間、水族館構内に埋設(肉片等の除去)し、札幌の専門業者に委託、平成四年二月、完成し展示の運びとなりました。イチョウハクジラは、雌で体長四・五三m。骨格標本は全国で三例目、道



内では初めてです。骨の数は八十個。特徴は、下あごに一対ある歯がイチヨウの葉の形をしているのと、背中までの体高に比べ体の幅が狭く、スマートな紡錘形をしています。

この他、コーナーにはクジラ等の遊泳の様子を目で確かめられるビデオや、クジラの鳴き声も聞けるように音響装置も配置しました。是非一度ご来館ください。

(市立室蘭水族館  
施設主査 大柴惣寿)

○顧問制度の強化について○

平成三年十二月四日、帯広市百年記念館で開催された役員会において、顧問制度の強化が協議され、北川芳男氏、米村哲英氏の顧問就任要請が決議され、五日付けをもって両氏が顧問に就任しました。

北海道博物館協会顧問は次の各氏となりました。  
中川 敏氏(元札幌市山動物園長)  
工藤欣弥氏(札幌芸術の森美術館長)  
北川芳男氏(静修短期大学教授)  
米村哲英氏(元網走市立郷土博物館長)

また、同役員会において、今後の道博協活動には外部からの強力な支援が必要であるとの見解から特別顧問制度の

設置が協議され、これについては各理事からの推薦によって行うこととし、事務局において集約を行っております。  
◇館・園の主な行事計画◇

平成4年4月～5月

●札幌市資料館

4・7～7・26 北電文化誌、フロンティア」著名作家原稿展  
●札幌市青少年科学館

5・26～6・16 春の移動天文台、5・27～5・31 札幌市天文台夜間公開、5・30 特別放映会「星空へのいざない」木星

●札幌芸術の森

4・4～5・10 ムンク展―画家とモデルたち、5・16～6・18 芸術の森美術館収蔵品展、4・25～5・15 かたち・いろどり北欧くらしのガラス展

●北海道開拓の村

5・5 郷土芸能「北海若衆太鼓」、5・17 伝統芸術「竹細工」、5・24「桶細工」、5・4、5 伝統文化「生け花」、5・17「野だて」、5・24 農作業体験「トウモロコシの種まき」

●北海道近代美術館

コレクシヨンギャラリー 4・4～6・7まで「語りかけるガラス・エミール・ガレから現代まで」、4・11～6・7 特別展「日本のリアリズム」

●北海道立三岸好太郎美術館  
4・2～5・14 所蔵品展「第一期天折のロマンティズム」、4・25、5・30 ミニ・リサイタル、

●札幌市豊平川さけ科学館

5・4、5 体験放流

●札幌市円山動物園

4・29～5・10 春祭り、5・10、17 探鳥会

●恵庭市郷土資料館

4・21～5・16 第8回特別展「北海道の化石」

●江別市郷土資料館

5月下旬～6月上旬「江別の歩み展」

●北海道立函館美術館

4・4～5・17 特別展「アルフオンス・ミュシヤ展」

●小樽市博物館

自然科学講座、4・26「大地の生い立ち」、5・24「春の植物野

●小樽市青少年科学技術館

5・24、31 星空CDコンサート

●小樽ヴェツィア美術館

4・17～5・29 特別展「仮」ガラスのマリンパークコスタ

●滝川市美術自然史館

特別展 5・2～5・10「羊の詩・草の詩内モンゴルこども版

画展」、5・16～6・14「BOT

●美唄市郷土史料館

5・27～6・27 特別展「化石―白亜紀とアンモナイト―」

●上富良野町郷土館

4月～10月 特別展「フォトコンテスト写真展」

●士別市立博物館

5・16～6・7 特別企画展「我が家のコレクシヨン展」

●下川町ふるさと交流館

5・1～5・31 第2回収蔵資料展

ANICAL ART植物の世界」、5・17 講演会「植物画の楽しみ」

●砂川市公民館郷土資料室

4月～6月 特別展「菓子包装・道具展」

●美唄市郷土史料館

5・27～6・27 特別展「化石―白亜紀とアンモナイト―」

●上富良野町郷土館

4月～10月 特別展「フォトコンテスト写真展」

●士別市立博物館

5・16～6・7 特別企画展「我が家のコレクシヨン展」

●下川町ふるさと交流館

5・1～5・31 第2回収蔵資料展

●利尻町立博物館

5・1～6・30 期間展示「利尻町の民具」

●網走市立美術館

4・23～5・10 開館20周年記念特別展「文部省子供の絵画展」

●美幌博物館・美幌農業館

3・15～5・24 企画展「寄贈美術資料展」

●北網圏北見文化センター

4・23～5・5 企画展「未来の夢科学の絵画展」

●苫小牧市博物館

4・26～5・17 特別展「平成3年度新着寄贈資料展」

●苫小牧市科学センター  
4・21～9・11 日科学センター、5月 科学センタークラブ

●室蘭市民俗資料館

4月下旬特別展「なつかし映写機蓄音機」、5・3～5・5 見学会「ミスバショウ鑑賞会」

●北海道立帯広美術館

企画展 4・4～5・7「神話・宗教・聖なるイマージュ展」、5・16～6・28「矢柳剛の40年展」

●本別町歴史民俗資料館

5・24「野鳥の観察と森林浴」

●厚岸町郷土館

5・23～5・31 特別展「重要文化財指定記念 正行寺本堂展」

●帯広市百年記念館

4・25 講演会「十勝のアイヌ文化」

○会費納入のお願い ○

本協会の円滑な運営のため、平成4年度の会費の納入を左記によりお願いいたします。

記

(会費) 団体会員 五〇〇〇円  
個人会員 三〇〇円

(取扱銀行)

北海道拓殖銀行新さっぽろ支店  
普通口座 01861287000  
(郵便振替) 小樽七二九四一七